

防災力を高めよう！

—幸田中学校の防災学習—



東日本大震災
から4年
災害を忘れない

東日本大震災から4年、
いつ起こるか分からない
災害への備えとして、
私たちに今できることは
何か。
今回は1年間を通して
防災学習を行ってきた
幸田中学校の取り組みを
紹介します。

域への減災活動

幸田中学校3年生の取り組み

テーマ「中学生ができる地域への減災活動」

①平成26年7月1日

総合的な学習の時間

大雨や台風などの風水害や現在、危惧されている南海トラフの巨大地震に備えることを目的に、防災学習会を開催しました。学習会では防災安全課職員を講師として、自然災害の怖さや自分・家族が被災者にならないよう、災害が起こる前に事前に行えることを学びました。



学習会で講演を受ける様子



講演の内容について質問する生徒

私が学んだこと

今までは他



幸田中3年
ことみさん
山本

人事のように
考えていたこ
講話を通して
身近に起こり
得ることなの

だとはわかりました。私の家は、災害への対策をしていないので、できるところから少しずつやっていきたいと思いました。それから、東海地方で災害が起きたときなど、中学生がとても重要な役割だと知ったので、もし災害が起きたら行動に移せるように日頃から自覚をもって過ごしたいと思います。



搬送法を実践している様子

②平成26年10月1日
防災体験学習会
 生徒が課題をもって防災へ取り組み、消防署職員等の協力のもと体験学習を実施しました。災害時に役立つ手作り担架や、いすを利用しての搬送訓練、応急手当等を学びました。また、災害時の体験として、濃煙体験や地震体験車も行われました。



起震車（なまず号）を体験

このような体験ができてとてもよかったです。この体験は、僕の知らないことばかりでした。特に印象に残ったのは、なまず号です。地震の揺れを初めて体験できたので、地震の怖さを感じることができました。だんだん地震の揺れが大きくなるにつれて、立っていることが困難になりました。実際は、タンスなど大きな家具が倒れてくるので、本当に危険だと改めて思いました。災害は、僕にとって関係のないものではなく、身近なものだと思えます。いざ災害が起きたときに頼りになる人が自分だけかもしれない。もし、災害が起きたときにどのような避難や救助ができるかを、今後さらに細かく調べたいと思いました。



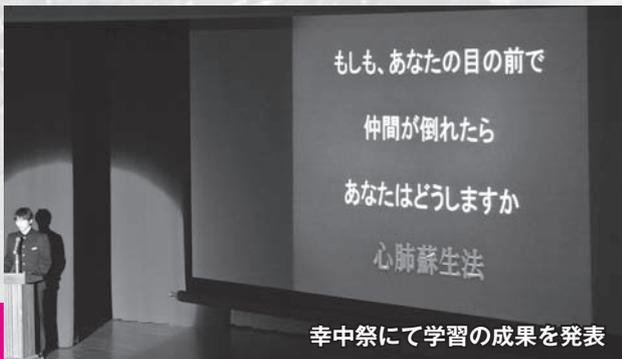
幸田中 3年 西山 仁 さん

とても貴重な体験ができました。普段めったに経験できないので、

〈私が学んだこと〉

防災体験学習を通して、

中学生ができる地



幸中祭にて学習の成果を発表

③平成26年10月17日
幸中祭
 生徒が今まで取り組んだ課題について展示発表を行いました。展示にはたくさんの方の保護者や家族等、真剣に見学していました。また、取り組まれた内容について、全校生徒を対象に発表会も開催されました。



展示発表も行いました



幸田中 3年 山本 浩天 さん

通じて、災害の恐ろしさを知りました。僕たちが生きている間に、

〈私が学んだこと〉

防災に関する調べ学習を

災害は必ず起こります。その日に備えることの大切さを僕は学びました。これまで僕らが調べてきたことや学んだことを、幸中祭で多くの人に知ってもらえたことで、もしものときに一つでも多くの命が助かるかもしれません。防災について学んできたことが、人の役に立って嬉しかったです。

幸田中学校2年生の取り組み

テーマ「命支え合い 自ら動く」

④平成26年8月21日
防災学習会

名古屋大学減災連携研究センター防災教育アドバイザーの近藤ひろ子氏を招き、震災の現場で感じた生き様を紹介していただき、自らの将来の生き方について考える機会をもちました。また、震災を通じての「命」について触れたお話を聞くことで、自分以外の他者への思いやりや優しさの大切さを感じる事ができました。最後に非常食のアルファ米の試食をして、避難時の体験をしました。



近藤ひろ子先生の講演を聴講する様子



非常食の試食も行いました



幸田中2年
はやし林 実夢さん

〈私が学んだこと〉

私は防災の話聞き、地震や津波などの自然災害はとも怖いと思いましたが、自然の力で多くの方が亡くなってしまい、悲しみを抱えて生きていくことになった人の話を聞いて、自分の命は自分一人だけのものではないということが分かりました。そして、改めて自分の命を大切にしたいと思いました。私たちも中学生として他人の命を助けられるような活動をしたと思います。

命・支え合い・自ら動く

⑤平成26年11月6日

防災学習会

災害は地震だけではなく、台風や大雨についても大きな被害となります。幸田町で直近で起きた災害「平成20年8月末豪雨」について、町防災安全課職員を講師として概要を教わり、平常時から災害に備えることを学びました。



平成20年8月末豪雨の被害について学ぶ



講演の内容について質問する生徒



幸田中2年
ひらいわももか 桃香さん

〈私が学んだこと〉

私はあまり覚えていないけれど、今日見せてもらった映像を見て、本当にすごい被害があったんだと分かりました。田んぼが水浸しになっていて、びっくりしました。私は、瓜田川の近くに住んでいるけど、同じように豪雨によって家の周りが、水浸しになったら困るなあと思いました。普段から自分ができる準備をしておきたいと思いました。



平成20年8月末豪雨で決壊した現地を見学

⑥平成26年11月19日・12月3日

現地学習

平成20年8月末豪雨で決壊した広田川の現地視察や、浸水被害のあった方への聞き取り調査をしました。広田川の決壊現場には全クラスが訪れ、当時の様子を解説を交えて聞くことができました。また、クラスごとにテーマを決めて、新田老人憩の家（新田区長）、ポンプ場（当時の管理人の近藤さん）、消防署、相見駅、貯水池を訪れました。

私が学んだこと



幸田中2年 中嶋 彩咲さん

近藤さんのお話はとてもリアルで驚きました。目の前に突然水が迫ってきたら、確かにびっくりすると思います。すこいのは逃げなかつたことです。ご飯を食べ、またポンプ場に戻って仕事をしていた近藤さんはすこいと思いました。当時の写真や印刷物なども準備してくださって、とても助かりました。遊水地の計画は初めて聞いたので、びっくりしました。田んぼがなくなるのはさみしいけど、しょうがないのかなと思います。

私が学んだこと



幸田中2年 森瀬 陽平さん

8月末豪雨のときにポンプ場で働いていた近藤さんに当時のことを伺いました。夜中に大雨が降ってきたときにポンプ場に行ったことや堤防が決壊したときの役場の方とのやり取りなど、実際に体験した方の言葉は、インターネットで調べたときの文字に比べて迫力があり、重みが違いました。
今まで自然災害というと、地震や台風がまず先にあり、大雨なんて、思っていました。しかし、8月末豪雨のときの水が住宅地の方に流れ込んでいたら、被害はもっと甚大になっていたということが分かりました。僕は近藤さんのお話を聞いて、雨を侮ってはいけないと思いました。
自然には勝てません。だから、せめて自分の命くらいは守れるようにしたいです。



新田老人憩の家で新区長さんから聞く



ポンプ場の当時の管理人さんから聞く



相見地区の防災対策について学ぶ

1年間の活動を終えて 〈担当教師からの一言〉



3年担任 内藤 智貴先生

防災についての調べ学習や体験を通して、いざ災害が起きたときに頼りになる人が自分だけかもしれないということに生徒たちは気づきました。さらに、防災力を高めることが、自分自身を守るだけでなく、自分の住む地区や町を守ることに知った生徒は、防災に対してより関心を高め、理解を深めることができました。いずれやって来る災害時には、自分の役割を理解し行動できる中学生が、家族や地域を支える大きな力になると信じています。



2年主任 山中 剛先生

1年生では「三河地震」について、2年生では「8月末豪雨」について学年として防災について学習してきました。地元で起きた身近な災害をテーマとして取り上げることで、防災を自分のこととしてとらえさせたいと考えています。そして、中学生の自分たちには何かがあって、行動する力へとつながっていくと思います。そして、何よりも「命」と向き合うことで、自分以外の他者への思いやりや優しさを大切にし、自分と他者の「一生」について考えを深めさせたいと考えています。

〈町防災担当からの一言〉



防災安全課 春日井 幸弘 主査

地震、風水害などの自然災害は、いつどこで起こるか分かりませんが、日常生活から「備える」ことが必要不可欠です。次世代を支える小中学生に対する防災学習は非常に大切なものです。特に「聞く」だけでなく、実際に「体験する」ことで自分の命を守ることが身に付きます。更には家族を守ることに繋がります。今後、小、中学生に対する防災教育、防災学習に努めていきます。

問合せ 防災安全課防災安全対策G（内線372）